

第26回資金管理業務諮問委員会 議事概要

1. 日時：2008年9月25日（木）14時00分～15時25分
2. 場所：財団法人自動車リサイクル促進センター 第1・第2会議室
3. 出席者：永田委員長、鬼沢委員、小島委員、酒井委員、辰巳委員、細田委員、米澤委員
4. 議題：①平成20年度第1四半期（4～6月）決算報告について
②平成20年度第1四半期の運用の評価について
③資金管理業務規程の変更について
5. 議事概要

※ 本議事概要では委員の主な意見、決定事項を中心にまとめており、資料に関連する質疑については後日、議事録を公表いたします。

（1）議題①について

平成20年度第1四半期の決算報告について、資料3-1から資料3-7を使用して事務局から説明。案のとおり了承された。
委員からは次のような意見があった。

<意見> （注）○は委員、●は事務局

- 新車時預託は少ないが、引取時預託は意外と多い。何が起きているのか気をつけて欲しい。
- わかる範囲で分析すると、車検を受けずに一時抹消されていた自動車思った以上に多く、潜在的にはまだ引取時預託がありそうである。また、金属市況がよかったので、中古車としてではなく、鉄スクラップとして販売された可能性もある。
- 本件は合同審議会が必要に応じて調査することになっているので、そちらで取り上げてもらう。
- 監査手続きが変更になったが、金融商品取引法で決まっているレビュー基準のとおりやっている。公益法人に適用されるものではないが、同じようにやっているので問題はない。
- 資料3-2をみると、輸出返還台数は前年同期と比較して倍増している。ほぼ本年度予算想定どおりとのことであり、昨年度第1四半期は特殊要因があったのか。
- 昨年度は返還台数が右肩上がりで急増していたが、今年度はほぼ横ばいになると想定して予算を策定している。

- 前年度比較と予算比較の2つの視点があるので次回以降はコメントを工夫して欲しい。
- 次回から工夫する。

(2) 議題②について

平成20年度第1四半期の再資源化預託金等の運用評価について、資料4-1、4-2を使用して事務局から説明。案のとおり了承された。
委員からは次のような意見があった。

<意見> (注) ○は委員、●は事務局

- 現行のような細かい債券種別構成比目標に合わせる必要はあるのか。
- 債券市場の種別構成比に合わせるといのはよくある運用方法である。運用開始当初はこれでよかったが、これからは問題が出てくるようなので、当初の目標にこだわる必要はなく、弾力的にやってもいいのではないか。しかし、できれば分散投資はした方がよい。
- ある程度自由度のある幅の広い運用でもいいのではないか。

- 収入が想定よりも少なくてラダー型にならない時はどうなるのか。
- 保有債券を売ってラダー型を作るといふことはしない。

(3) 議題③について

資金管理業務規程の変更について、資料5-1、5-2を使用して事務局から説明。案のとおり了承された。
委員からは次のような意見があった。

<意見> (注) ○は委員、●は事務局

- 保有地方債の信用リスクの問題と保有地方債の売却・保有について我々の説明責任をどう果たすのかという問題がある。
- 新たに無格付けの地方債は買わない。保有地方債については、信用リスクを注視しながら、持ち続けるか売るかを判断する。自治体の信用が急速に悪くなることがなければ、持ち続けて、財政状況を注視していく。

- 格付けに替わる自治体信用力評価指標等の見通しはどうか。
- まだ分からない。

- 格付けに替わる基準が出れば、それを運用の基本方針に入れたい。基準がないままに無格付け地方債を長期保有するのは難しい。

- 平成20年末の勝手格付けを基準としていつまで保有し続けるのか。
平成20年度はそれでいいとしても、平成21年度以降は十分に信頼し得る明確な基準を作る必要がある。

以上